

地域ケアセンター

「新ワルツ」完成間近
「地域ケアセンター」発行開始



完成間近の新ワルツの様子

センター長 八巻 利子

ワルツの老朽化に伴い、念願であった永住型グループホームの新ワルツが11月に完成、引き渡しの段階に入りました。懸案であった訪問看護ステーションの併設についても準備が始まり、重度化・高齢化するご利用者様対応への期待が高まっています。また、新ワルツの完成と並行して「ケアセンター」だより

（季刊誌）の発行にこぎつけ

ることができました。ご家族・世話人・支援員・ヘルパーさんたちの思いも沢山盛り込み、意義ある季刊誌にしていきたいと思っています。

さらに、サポートウイズではホームヘルパー登録してくださる方を募集中です。お気軽にご連絡・ご相談ください。

※お問い合わせ先
地域ケアセンター
電話03(3220)4510
(平日9時~17時)
担当 八巻まで

パン工房 pukupuku

統括リーダー 池田 史暢



いたるセンター全体の自主生産品の紹介・販売

パン工房pukupukuでは、南荻窪の店内での販売の他、スポーツのイベント販売を含む年間数百か所以上の外販を行っています。

杉並区内の保育所や児童館の他、区役所での定期販売で安心・安全のパンをご提供しています。パン以外でいたるセンターの各施設で作られているクッキーやラスクの他、シヨコラ、タイカレーを併せてご紹介が販売されています。

今後もパン工房pukupukuのパンを中心に、さまざまな自主生産品の外販窓口を拡げ、ご利用者様の工賃アップに努めてまいります。

法人本部

当法人の5事業部が第三者評価を受審しました

平成26年度、阿佐谷福祉工房、あけぼの作業所、目黒本町福祉工房、短期入所クローバー、パン工房pukupukuの5つの事業部が、福祉サービス第三者評価を受審しました。

社会福祉法人の運営に関する情報開示は、質の高いサービスを安定供給するため、その透明性を高めることを目的としています。

社会福祉法人いたるセンターでは、第三者評価をはじめ、現況報告書や決算書などの経営情報も合わせてホームページ上で公開しています。

いたる広報委員
発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区大宮1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/平成27年11月1日
ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。

いたる通信 58 秋号

目次 contents

- 01 いたるセンター
- 02 阿佐谷福祉工房 あけぼの作業所 すまいる高井戸
- 03 目黒本町福祉工房 クローバー・マルコ エコール・ド・イタルさんまるしえ
- 04 いたる地域ケアセンター イタル成城 PukuPuku 法人本部

いたる賛助会入会のご案内
「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣意であります。
年会費 1,050円(何口でも可)
郵便振替 00110712892
振替口座 339217346 事務局 山本まで

「人を残すは上なり」

〜世田谷区喜多見に職員寮新設〜

社会福祉法人いたるセンターでは、「いたる百年の計」として、福祉、介護、医療、教育、農業という5つの事業ドメインの確立を目指し、さまざまな社会的課題の解決に挑戦しています。

その基本となるのは、当法人で働く職員であります。世のため人のために役立つ優れた人材を採用し、教育

で、やがては福祉国家を担う社会起業家として輩出するためには、教育・研修

制度の充実がもとより、福利厚生やワークライフバランスに配慮することも重要な課題です。

今年度の新卒採用では、法人設立以来最も多い12名

もの優秀な職員を迎え入れることができたが、経済環境の好転により、学生

優位の売り手市場へ変遷を遂げつつある新卒市場において、多くの企業において終わりの見えない採用活動が続いているのが現状です。こうした人材採用が難しい時代の到来に先駆け、社会福祉法人いたるセンターでは、世田谷区喜多見に職員寮を整備することとなりました。25平方メートル超のワンルームが7室、バス

・トイレ振り分けの新築物件で、入居対象者には夜勤や宿直のある地方出身者の看護師や介護支援員を想定

しています。現在建設中のこの職員寮は、障害者福祉にご理解の深い地主様から建物を建設

していただき、障害者グループホームとともに運営されます。優秀な人材の確保

および充実により、ご利用

者様の重度化・高齢化・医療的ケアへの手厚い対応を実現していきます。

社会福祉法人の意義が問われ、積極的な社会貢献が求められるいまこそ、社内保育所や職員寮の整備等、福利厚生の充実を図り、万全の支援体制によってサービスの質の向上を目指します。

関東大震災の復興にあたった後藤新平先生は、「財を残すは下なり、事業を残すは中なり、人を残すは上なり」という名言を残しました。この言葉を胸に刻み

「人を育てる」ことを志として、法人運営に注力してまいります。

今後とも、社会福祉法人

いたるセンターに変わらぬご支援をお願い申し上げます。

社会福祉法人いたるセンター
理事長 谷山 哲浩



世田谷区喜多見に整備される職員寮の完成予想図。

今年度の新卒採用では、法人設立以来最も多い12名もの優秀な職員を迎え入れることができたが、経済環境の好転により、学生

優位の売り手市場へ変遷を遂げつつある新卒市場において、多くの企業において終わりの見えない採用活動が続いているのが現状です。こうした人材採用が難しい時代の到来に先駆け、社会福祉法人いたるセンターでは、世田谷区喜多見に職員寮を整備することとなりました。25平方メートル超のワンルームが7室、バス

今後とも、社会福祉法人いたるセンターに変わらぬご支援をお願い申し上げます。

阿佐谷福祉工房

クリーニング事業の展開

施設長 佐藤 章 (さとう あきら)



大型受注を受けられるように体制を整えています。

この4月より荻窪北マンション104を「にぎやかクリーニング」の名称でクリーニング事業を立ち上げました。引取りから納品までご利用者様の出来ることを少しずつ増やしながらの事業展開です。現在は、新宿駅周辺の限られたエリアからのスタートですが、自社ビルや管理しているビルを多数抱えている企業との提携から進めています。

当施設では、クッキー&ラスクをはじめ、法人全体では、パン、タイカレーの街詰、チョコレート等多くの自主生産品があり、「オフィスグリコ」ならぬ、「オフィスいたる」を視野に入れて、クリーニングの配送ルートを活用した事業展開を日々考えています。今後は、官公庁や企業等の防災毛布の洗濯、グループホームや保育園等の貸布団と布の丸洗い、タオル、おしほりなどのリネンの仕事について展開を検討しています。

あけぼの作業所

保護者との連携(関係性)について

施設長 荒川 善夫 (あらかわ よしお)

かく都會ではコミュニケーション力が欠如し、近隣との人間関係が希薄となつていると、言われています。その延長線上にあけぼの作業所とご家族様との関係が構築されているとすれば、GHI等に居住しているご利用者様には特に配慮して関係性を構築していかなければならないと思っております。勿論、こ

家族様と同居しているご利用者様はなおのことです。私は、ご家族様との連携を今後強化し、ご利用者様の支援に活かせるよう尽力してまいります。ご家族様との絆をより深めます。



ご利用者様との絆をより深めます。

杉並区障害者地域相談支援センター高井戸 (すまいる高井戸)

センター長 春山 陽子 (はるやま ようこ)

杉並区の相談及びすまいる高井戸の相談事業について

今年4月より、杉並区では、福祉事務所の愛の手帳担当ケースワーカーの体制が無くなったこと、サービス利用の相談窓口として、区役所障害者施策課(1階)や地域ネットワークワーク推進係(2階)、また相談を含むサービス等利用計画作成は特定相談支援事業所と、ここ近年相談支援体制が変わってきています。



自立支援事業の音楽クラブの様子

基本相談を区から委託されているすまいるは、主に在宅の方や一般就労を退職された方などに、その方に合ったサービス利用につなげたり、特定相談支援所や保健センター、就労支援センター等と連携をし、生活支援を行っています。杉並区の計画相談は、予定の2600人のうち2000人ほど作成されていると聞いていますが、現在約30の特定相談支援事業所で、すべての方を支援するのは難しく、杉

並区は区外の事業所に依頼したり、独自で昨年度に続き今年度も相談支援専門員の研修を実施し、特定相談支援事業所を増やす予定です。その研修には、すまいる高井戸も、講師やファシリテーターとして協力しています。すまいる高井戸は、今年度、相談件数は毎月800件を超え、地域の中での役割が広がっていると感じます。今後も、チーム力をいかし相談に取り組みたいと思います。

目黒本町福祉工房

夢とガッツあふれる私たちの未来を宇宙に届けよう!

施設長 阿久津 庄司 (あくつ しょうじ)

この表題は、先だって開催された「第4回本町まつり」のテーマです。まつりに向けた利用者実行委員会で、「夢」「未来」「ガッツ」「宇宙」という4つのキーワードを出していたとき、それを文章にしてみました。



祭りの後の懇親会の様子!

この通信が発行される頃には「本町まつり」も終わり、私も、祭りのあとの寂しさや余韻に浸っている時期かと思いますが、みんなの将来への熱い思いが、ご来場の皆さまに少しでも届いていれば幸いです。

さて、クローバー・マルコの送迎車がこの度2台とも新しくなりました。1台は車椅子1台乗りのハイセットから車椅子2台乗りのノアに、もう1台はグレーのセレナからオレンジのセレナとなりました。今まで一緒に乗車することがなかったメンバーと送迎時間を楽しんでいただく機会が増えました。

同研修は、今後とも「4月開講↓8月修了」と「11月開講↓3月修了」の年間2回定期的に開催。社内講師7名と社外講師6名の陣容で、介護・福祉人材の確保・育成のために尽力していきます。どうぞよろしくお願いたします。

福祉ショップ さんまるしえ

家族連絡会後の出張販売

黒本町福祉工房に隣接するさんまるしえでは、目黒区内の施設から雑貨や焼き菓子、シヨコラ等の販売をしています。日頃は店内で販売をしていますが、年に数回開催される工房の家族連絡会のご利用者様のご家族が集う機会なので、この機会をとらえて、館内のエレベーター前に仮販売スペースを確保し、簡単なミニ販売会を実施し、拡

販に努めています。



来年の干支のサルの土鈴です。好評で品薄状態が続いています。

まずは、当事者と最も身近にいる我々が「思いやり」の志を持って、日々実践あるのみと思っております。素敵な4つのキーワードをくれたみんなに「希望に満ちた未来」が待っていますように!



2台の車椅子が乗れます

い車両で送迎にうかがいます。よろしくお願いします。



ご家族の皆様との理解を深める機会になっています。